

# 2014（平成26）年度卒業生アンケート調査 （2018年度実施）

## 調査結果報告

# CONTENTS

- 1.2014（平成26）年度卒業生アンケート調査結果
- 2.まとめ：考察と課題

# 1.2014（平成26）年度卒業生アンケート調査結果

---

- 本調査の目的

東北学院大学では卒業後3年を経過した卒業生に対して、大学生活で身についた能力や資質を通じ、卒業後に選択した進路・就職先で成果を感じているか調査を実施する。

本調査実施により、教学上の3つの方針に基づく人材養成が適切に行われているか評価・検証し、今後の在学生に対する進路・就職の支援に活用することを目的として実施する。

- 調査対象：2014年度学部卒業生 2,646名（早期卒業生1名除く）
- 調査方法：郵送による案内（GoogleフォームによるWeb回答方式）
- 調査期間：2018年12月20日～2019年1月15日
- 本調査の主管は就職キャリア支援課が実施した

# 1.2014（平成26）年度卒業生アンケート調査結果

- 調査結果概要

回収数 141名（男性：90名 女性：51名）

回収率 5.3%

- 設問項目数 12問

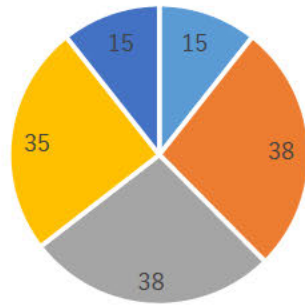
- 回答者の学科構成

学部	学科	人数
文学部	英文学科	9
	総合人文学科	1
	歴史学科	10
	学部計	20
経済学部	経済学科	14
	共生社会経済学科	17
	学部計	31
経営学部	経営学科	15
法学部	法律学科	26

学部	学科	人数
工学部	機械知能工学科	5
	環境建設工学科	5
	電気情報工学科	6
	電子工学科	6
	学部計	22
教養学部	人間科学科	7
	情報科学科	6
	言語文化学科	7
	地域構想学科	7
	学部計	27
合計		141

# 1.2014（平成26）年度卒業生アンケート調査結果

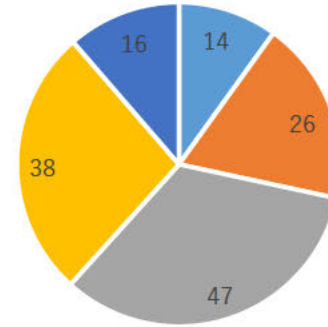
## 給与に関する満足度



中央値 : 3.00  
 平均値 : 2.98  
 標準偏差 : 1.17  
 分散 : 1.38

■ 1 ■ 2 ■ 3 ■ 4 ■ 5

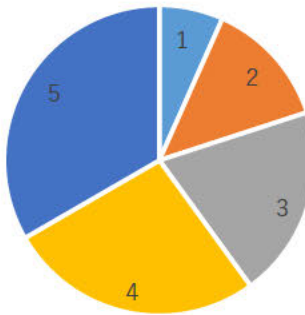
## 仕事内容における満足度



中央値 : 3.00  
 平均値 : 3.11  
 標準偏差 : 1.14  
 分散 : 1.30

■ 1 ■ 2 ■ 3 ■ 4 ■ 5

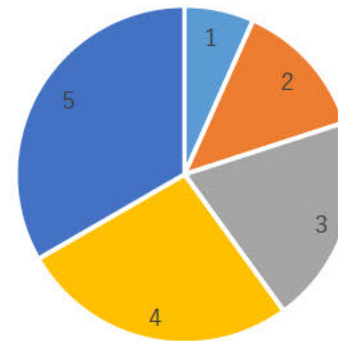
## 職場雰囲気への満足度



中央値 : 3.00  
 平均値 : 3.25  
 標準偏差 : 1.25  
 分散 : 1.56

■ 1 ■ 2 ■ 3 ■ 4 ■ 5

## 労働条件への満足度

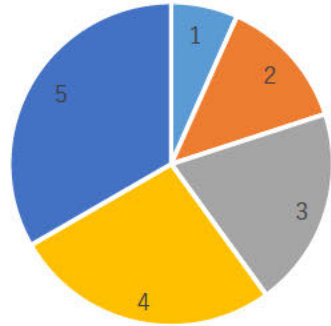


中央値 : 3.00  
 平均値 : 2.98  
 標準偏差 : 1.17  
 分散 : 1.38

■ 1 ■ 2 ■ 3 ■ 4 ■ 5

# 1.2014（平成26）年度卒業生アンケート調査結果

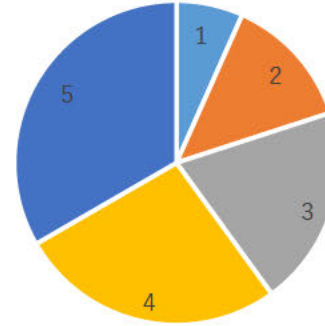
## 福利厚生満足度



中央値 : 4.00  
 平均値 : 3.67  
 標準偏差 : 1.16  
 分散 : 1.34

■ 1 ■ 2 ■ 3 ■ 4 ■ 5

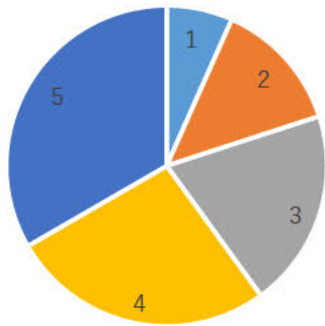
## 進路先に対する期待



中央値 : 3.00  
 平均値 : 2.87  
 標準偏差 : 1.23  
 分散 : 1.50

■ 1 ■ 2 ■ 3 ■ 4 ■ 5

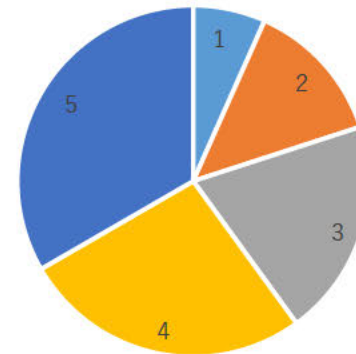
## 社員・職員の定着率



中央値 : 3.00  
 平均値 : 2.83  
 標準偏差 : 1.33  
 分散 : 1.12

■ 1 ■ 2 ■ 3 ■ 4 ■ 5

## 総合評価



中央値 : 3.00  
 平均値 : 3.10  
 標準偏差 : 1.06  
 分散 : 1.12

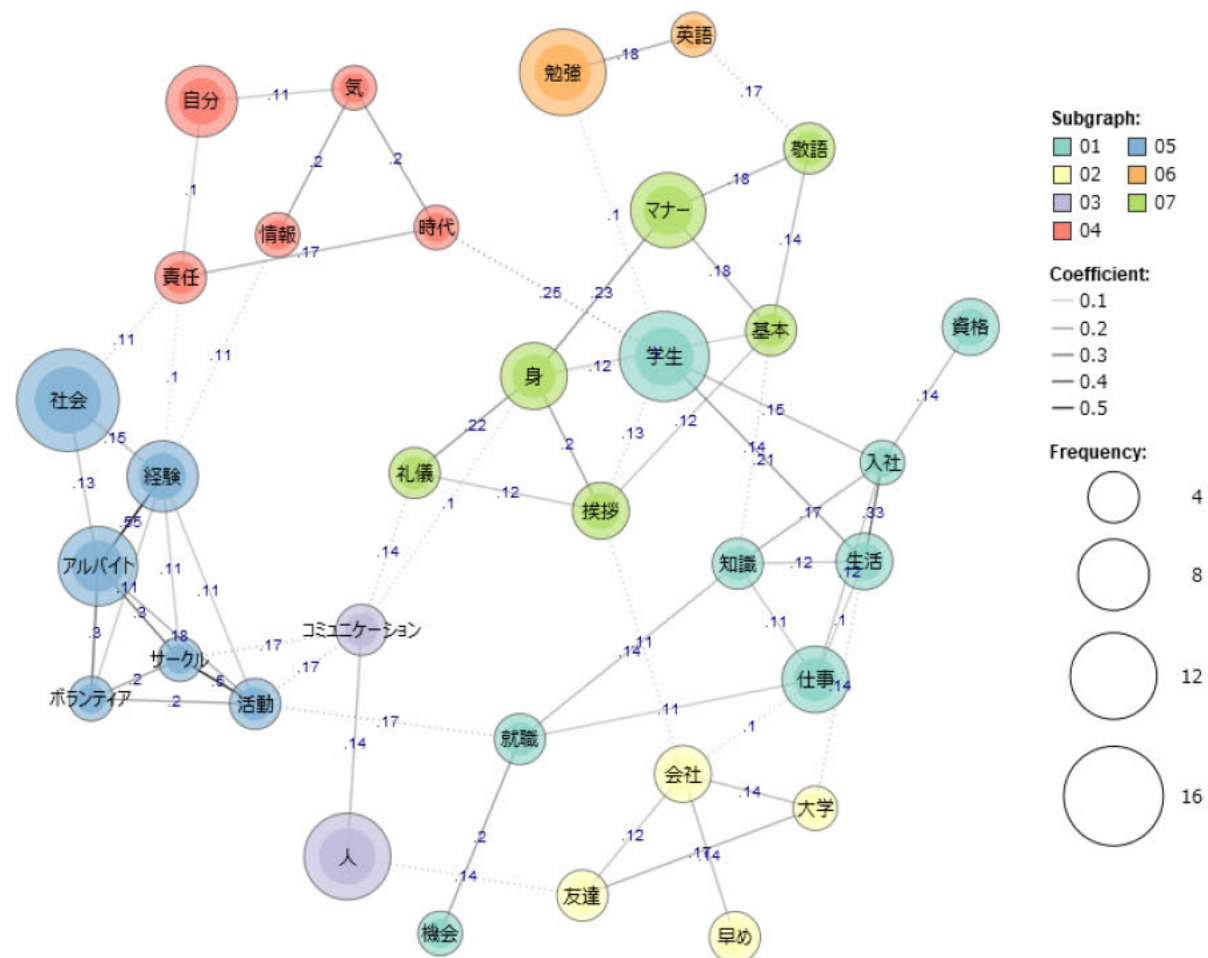
■ 1 ■ 2 ■ 3 ■ 4 ■ 5

# 1.2014（平成26）年度卒業生アンケート調査結果

## 「社会に出るための準備」についてのアドバイス（自由記述）

名詞
1 社会
2 学生
3 勉強
4 アルバイト
5 マナー
6 自分
7 経験
8 会社
9 資格
10 コミュニケーション

頻出複合語
1 学生生活
2 学生時代
3 コミュニケーション能力
4 社会的マナー/ビジネスマナー
5 大学生生活
6 生活リズム
7 ゼミ活動
8 就職活動
9 サークル活動
10 ボランティア活動



自由記述をもとにした共起ネットワーク（抽出は名詞）

# 1.2014（平成26）年度卒業生アンケート調査結果

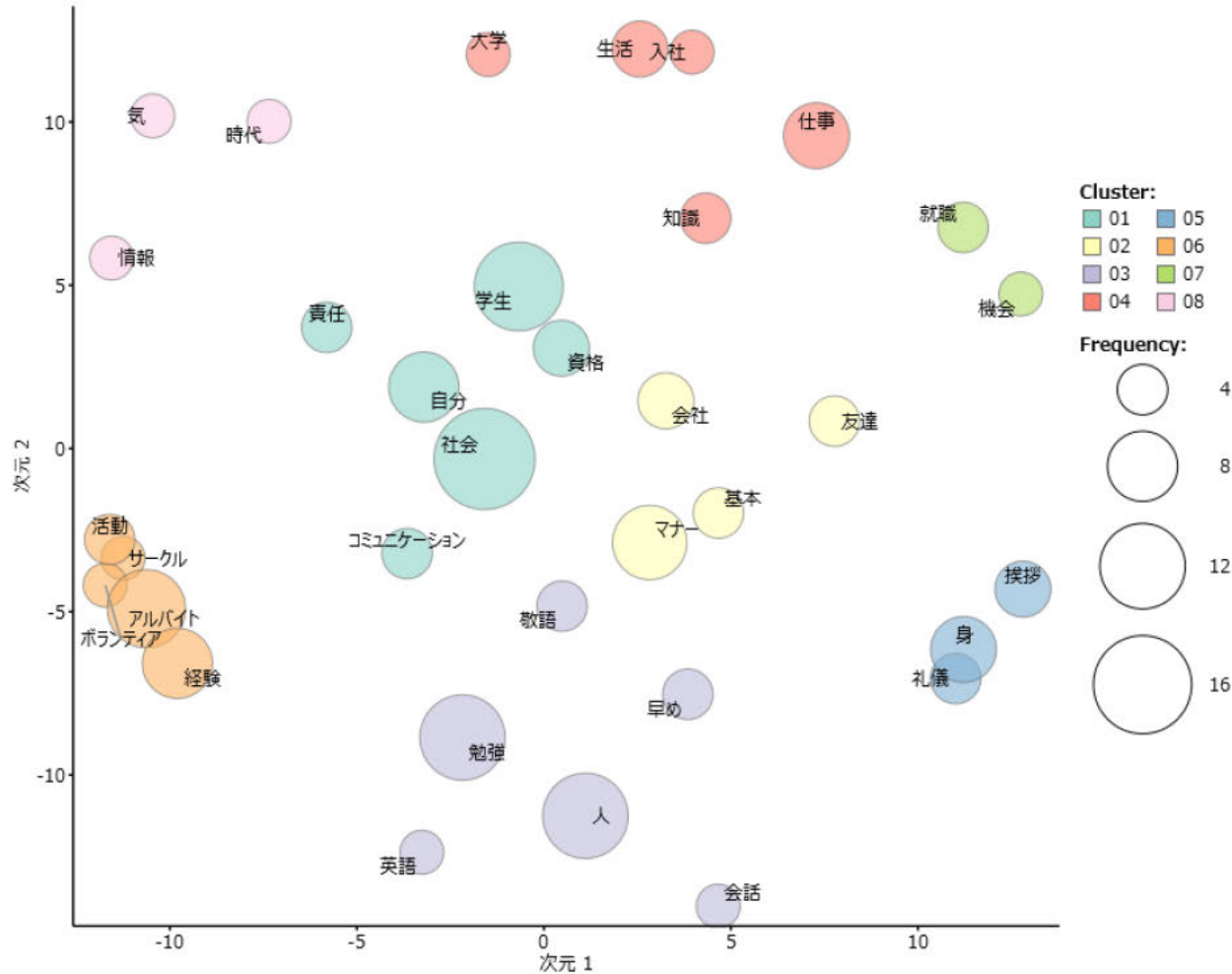
## • 学位授与の方針における

「2. 高度な知的活動に必要な汎用的諸技能・能力及び英語力を活用できる。」

が目指している高度な知的活動の基礎となる汎用的諸技能・能力（コミュニケーション力、論理的・批判的思考力、情報リテラシー、数理リテラシーなど）及び英語力を身につけ、活用することができる。

ことについて卒業後3年を経て必要性を感じている記述が見える。

また、多様な経験を持つことが様々な要因へとつながる記述が垣間見える。



自由記述をもとにした多次元尺度構成法による抽出名詞



## 3.まとめ：考察と課題

---

### ・考察

#### (卒業生アンケート)

- ▶ 大学生活として社会に活かせる経験として課外活動、ボランティア等を通じたコミュニケーションによって、社会のルールやマナーを身に付けておく必要性を感じている。
- ▶ ポジティブな回答の場合、大学生活での多様な経験が活かされていることを感じている
- ▶ 学位授与の方針に基づく本学のカリキュラムが適切に測定をすることができていないが、進路・就職先に対する満足や将来に対しての期待は、一定程度うかがえ学士課程や進路・就職支援の適切性を検証したい。

## 3.まとめ：考察と課題

---

### • 課題

#### (卒業生)

- ▶回収率が5.3%と著しく低いため、大学で付与しているメールアドレスの恒久的な利用と、東北学院大学同窓会との連携が必要である。
- ▶今後、同様のアンケート調査を定期的に全学で実施することで、本学の教育の社会からの要請と整合しているか、大学生活を通じて身に着く知識・能力の測定と検証のみではなくディプロマサプリメントなどにより成績評価以外の大学の証明が必要である。
- ▶コミュニケーション能力や多様な経験に対して、必要性を感じている卒業生が多いことからPBLの実施やグループワークの積極的な取り入れるなど、意図的な他者とのかかわりを持てる学問分野を越えたカリキュラム構造も検討が必要。

